

中札内より元気いっぱい!

第86号

令和6年4月15日(月)

北海道中札内高等養護学校 校長室より

令和6年度 第42回 入学式

4月9日、第42回が挙行されました。

元気な35名の生徒の入学を、中札内村の森田匡彦村長様、上田禎子教育長様をはじめとするご来賓の皆様に見守っていただきました。

上田教育長からのご祝辞で、中札内村の魅力をたくさん紹介していただいたことで、式の後村内を見て回った保護者もいらっしまったようでした。「村で育つ子どもたちへの期待」をたくさん抱くことのできた一日だったと思います。

これから、学校だけではなく多くの地域の方と出会いながら、子どもたちは大きく成長していきます。様々な経験を通して、中学校時代までには気付かなかった自分自身の魅力をたくさん発見してほしいと思っています。

35名の入学生をくわえ、今年度の中札内高等養護学校は108名の生徒たちでスタートです。地域の皆様にはたいへんお世話になります。どうぞよろしく願いいたします。



「思いを話す」って大事です

先日、木工科の3年生が、十勝毎日新聞の取材を受けました。

昨年、様々な場面で取材を受けることの多い中札内高養の生徒たち。自分の思っていることを言葉にするのがとても上手になったと思いました。思いを表現する方法は言葉で話すだけではなく様々。

話す、打つ、描くなど、どんな方法であっても、思っていることや考えていることを形にすることはとても大切なことです。このような機会をたくさんいただいている新聞記者の皆様へ感謝です!



舎の生活を自分たちで運営する生徒たち

寄宿舎の各役割に当たる生徒たちに認証書が手渡されました。自分たちの生活しやすい場所を自分たちでつくっていく、という自覚を育てながら、仕事に取り組んでほしいと思っています。リーダーになるのはたいへんです。責任も出ますが、その中で悩むことも多いことでしょう。



その都度、誰かに話を聞いてもらいながら、解決する力を育ててほしいと思っています。

認証式の最後に、3年工業科のSさんが決意表明を代表して述べました。とても堂々として姿でした。

学校だけではなく、寄宿舎で生活する力を育てる中札内高等養護学校の生徒たち。寄宿舎がある学校の大きな特色です。様々な役割活動の中で、仲間の意見を集約したり、話し合う力を育てながら、気持ちもたくましくなっていきます(^o^)